THE HIROSHIMA JOGAKUIN NEWS
昭和七年六月創刊
廣島女学院報
昭和廿八年十月復刊
第 183 号　2018(平成30)年1月20日
学校法人広島女学院発行
〒732-0063　広島市東区牛田東四丁目 13-1

広島女学院の卒業生サーロー節子さん
ノーベル平和賞授賞式で受賞スピーチ

広島女学院院長・学長　湊　晶子

ノーベル平和賞にNGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」ICAN(International Campaign to Abolish Nuclear Weapons)が選ばれ、12月10日の授賞式では、本学院の卒業生サーロー節子さんが受賞スピーチを行いました。

サーロー節子さんは1932年広島市南区に生まれ、被爆後、広島女学院中高を経て広島女学院大学を卒業され、米国に留学。結婚してカナダに住み、75年にはカナダ初の原爆展をトロント市庁舎で開き、「広島・長崎から学ぶ会」を結成し、ICANと行動を共にし、国連の核兵器禁止条約交渉会議で被爆者として各地で講演をして来られました。

サーローさんは授賞式を前に中国新聞に寄稿され、「ICANへのノーベル平和賞の授与は、廃絶運動への最高の励ましだ。同時に、非人道兵器を『抑止力』として正当化し、禁止条約への参加を拒む国々への痛烈な批判でもある。(中略)私は命ある限り、多くの人と手を携えながら核武装国と核依存国に行動を迫り続ける覚悟だ。」(2017年11月25日)と思いを綴られました。

この発言を受けて被爆地の思いを「先輩」に託したいと、広島女学院大学では学生、教職員がチャペルのロビーに集合、赤と青、校花のあやめにちなんだ紫の折鶴300羽を演説されるサーローさんに届けました。当日オスロの国会前広場に飾られました。

広島女学院高等学校では、「核兵器廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」の動画を作成し、現地で取材する中国新聞の記者に託してサーローさんに届けました。

サーローさんは演説の中で、「核兵器の開発は国家の偉大さが高まることを表すものでなく、国家が暗黒のふちへと脱落することを表しています。核兵器は必要悪ではなく、絶対悪です。」「私たち被爆者は、72年にわたり核兵器の禁止を待ち望んできました。これを核兵器の終わりの始まりにしようではありませんか。」と力強く訴え、「世界のすべての国の大統領や首相方に懇願します。核兵器禁止条約に参加し、核による絶滅の脅威を永遠に除去してください。」とスピーチを締めくくられました。

私は世界で唯一の被爆国である日本は、今こそ核廃絶に向かって責任を果たすべき時であると思っています。イエス・キリストは山上の説教で、「平和を実現する人は幸いである」と述べました。平和はどこからかやってくるものではなく、地球上の一人ひとりが「つくり出す」ものです。サーローさんと同年配で、爆撃により頭に大怪我を負いつつも九死に一生を得た私は、命が終わるその日まで「平和をつくり出すために」生き抜きたいと覚悟を新たにさせられました。

写真提供：共同通信社

大学 University

日本地理学会学会賞の受賞について

この度、2016年度日本地理学会学会賞（優秀著作部門、優秀論文部門）を受賞いたしましたことをご報告いたします。

優秀著作部門では拙著『都市と農村を架けるーザンビア農村社会の変容と人びとの流動性』（新泉社、2015年）が対象業績となりました。長期間にわたる現地でのフィールドワークによって得られた実証的データから、現代アフリカにおける農村と都市との関係性を明らかにし、発展途上国の農村・都市関係の理解に新たな視点を提示したことが評価されました。また幸運にも本書は、日本アフリカ学会、人文地理学会からも学会賞を受賞いたしました。

優秀論文部門では、拙論『滋賀県高島市朽木における行商利用の変遷と現代的意義』（『地理学評論』第88巻第5号掲載）が対象業績となりました。行商人という古くから続く日本の商慣行の意義を、現代の山間部における高齢者の生活や社会関係の文脈から再検討した点が評価されました。

これまで行ってきた研究を、学会賞という形で評価していただけたことは大きな励みとなりました。今後も国内外のフィールドに出かけ、おもしろい研究成果を発信し続けていきたいと思います。

（国際教養学科　専任講師　伊藤　千尋）

「ダイワハウス×広島女学院大学 住宅コラボプロジェクト」住宅2棟を計画中

生活デザイン・建築学科の建築士課程では、産学連携の「ダイワハウス×広島女学院大学 住宅コラボプロジェクト」が進行中です。住宅の基本設計を一階・ダイワハウス、二階・学生が行うもので、2棟が実際に建築、販売されます。学生のアイディアをカタチにできる夢のようなプロジェクトです。

2・3年生の授業「住居・建築設計実習」Ⅱ及びⅣで完成した45作品は、学内展（6／30～7／12）にて、建築士課程教員による一次審査で、各学年6作品に絞られました。二次審査では、広島市内の住宅展示場やダイワハウス広島支社等6ヶ所で一般の方による人気投票を行い（9／9～10／29）、最優秀作品＝実施作品が決定しました。

現在、実施設計に向けて、インテリアコーディネート中で、床・壁・天井などの仕上げ材料を決定する作業に奮闘しています。着工2月、竣工5月予定。

（建築士課程担当主任　細田　みぎわ）

最優秀作品　3年生／延廣佳苗さん「shelf corridor」

最優秀作品　2年生／福間直央さん「MORE PLAY」

女性向け農作業着の新商品開発プロジェクト ―広島女学院大学×アトムワークス―

6月から生活デザイン・建築学科に所属する学生有志5名とともに、株式会社アトムワークスが展開する女性向け農作業着ブランド『nomodo』の新商品を開発し実用化を目指すプロジェクトを始動した。

このブランドは、従来の女性用農作業着から脱却し、普段使いもできるシンプルで新しいスタイルを作りたいと開発したもので、機能性とお洒落さを兼ね備えた商品として販売されている。商品開発に際し、ハーストーリィプラスと共にウェブアンケートを実施し、座談会を開催するなどマーケティング調査が行われた。

学生たちは、そのニーズに合う新商品のデザインに取り組み、トータルコーディネートを提案した。また、既存商品をベースに形や色、テキスタイルを変化させて可愛く楽しく着てもらえることを目指した。秋ごろからは、デザインだけでなく機能性やコストパフォーマンス面から改良を重ね、概ねデザインが確定した。これらの活動は、広島テレビでも放送された。

今後、来年春・秋を目標に実用化され、全国販売される予定である。

（生活デザイン・建築学科　准教授　熊田　亜矢子）

『善』と『悪』を疑う～リベラルアーツの本質」

2017年度秋季宗教強調週間 10月16日(月)～20日(金)

今季宗教強調週間では、広島大学大学院教授そして本学院理事の辻学先生を特別講師にお迎えした。学生たちにとっては、「キリスト教学入門」で面白くて中身の濃い授業をご担当くださっている先生である。17日「キリスト教の時間」では、ある立場からは悪と思われるものが、別の立場から見れば善であるということを「桃太郎」を例にとり、示してくださった。また、旧約聖書・士師記のデボラに例をとり、女性にこそ担いうるリーダーシップのあり方を解き明かしてくださった。夕刻には教職員対象の研修会で、スイスでご長男の出産に立ち会われた経験と「エデンの園」の物語からの学びを重ね合わせ、「いのち」の尊さ、それを預かる教育機関の使命についてご教示くださった。翌18日の特別講演会では、『天使と悪魔の境界線』と題して、善悪の境界線に批判的思考をもって向き合う姿勢を示してくださった。私たちはつい、善／悪や正／誤などの二元的思考に陥りがちであるが、現実はそれほどクリアに分けられるものではないという認識こそ、大学における「知」が目指すべき地平であろう。

16日の特別チャペルでの学生による沖縄平和研修の報告や、19日木曜チャペルでの熊本ボランティアワークキャンプ報告からは、学生たちがそのような学びの本質に、実地研修や実践を通して接近している歩みが伺われ、頼もしいことであった。

（チャプレン　澤村　雅史）

特別講師の辻学先生

ゲーンス幼稚園と大学との連携

近年、広島県内には多くの保育者養成校がひしめいていますが、幼児教育心理学科の最大の強みは、ゲーンス幼稚園と一つの校地に共にあることだと思っております。

正規の実習や行事を通した交流だけではなく、授業の数コマを使った観察実習や部分実習、卒業論文のための実践研究や保育者への質的調査など、日頃、幼稚園の教職員の皆さま方が、学生たちの学びのためにと、労をいとわずお力を貸してくださっていることに、感謝の思いは尽きません。

1年生の春、学生は園庭や保育室で思い思いの遊びに真剣に取り組む子どもの姿に触れ、「遊びとは何か」を体験的に理解します。恒例となったキリスト教の時間の「こどもさんびかをうたいましょう」では、子どもたちにお祈りを届けたいという思いが学生たちの心を一つにし、持てる力を引き出していることを実感します。

昨年からは、預かり保育「さくらんぼルーム」において学生ボランティアとしての活動が始まりました。牛田校地周辺の子どもの育つ環境は近年大きく変わりつつあり、児童教育学科が立ち上がる来年度以降、就学後の子どもたちの遊びや学習支援にも視野を広げ、幼稚園との連携を強化していきたいと考えています。

（幼児教育心理学科　主任　中村　勝美）

管理栄養士国家試験に向けて

管理栄養学科では、今年も管理栄養士国家試験に向けて学生の猛勉強が始まりました。

12月2日に卒業研究発表会を終え、休む間もなく勉強体制へとシフトしています。これから3月4日の試験日までは、昼夜を惜しまず勉強に励むことになります。管理栄養士国家試験の合格率は、新卒者全国平均が90％前後、既卒者を含めた全国平均が50％前後ですが、本学では8年連続で94％以上と常に高い合格率を誇っています。昨年度も、合格率は98・6％（71名／72名中）で、広島県内で第一位、中・四国地区で第二位の結果を残しています。

広島女学院大学で、なぜここまで高い合格率を維持できているか？

それは、学生一人ひとりが「私は管理栄養士になりたい」という気持ちを持ち、同じ志を持った仲間が、お互いを助け合い、最後は自分の力で乗り切る不断の努力をしているからです。そして、学生を支えるご家族・教職員・先輩・後輩が一丸となり応援をしているからです。卒業生による学習支援や、先輩・後輩からの励ましの声は、受験生にとって大きな心の支えとなっています。

しかし、国家試験合格がゴールとは考えていません。管理栄養士として夢をかなえるスタートです。春には笑顔で卒業の日を迎え、新しいスタートが切られることを祈っています。

（管理栄養士養成課程　担当主任　妻木　陽子）

中学・高校

Junior high school & High school

文化祭

今年の文化祭のテーマは「CHALLENGE」でした。このテーマには、挑戦の「CHALLENGE」と変化の「CHANGE」の二つの意味が込められています。そしてテーマの通り、今年は中学生がたくさんのことに「CHALLENGE」し、「CHANGE」することができた文化祭になりました。

女学院の文化祭では、中学生は部活動ごとに参加することになっています。運動部は公開試合や体験、また文化部はホールでの発表や各教室での実験・展示などで、日頃の活動内容を紹介しています。部活動に所属していない生徒も、前日の装飾、当日の受付や靴袋配りなどの手伝いで文化祭に協力しています。

しかしクラスごとでも文化祭に参加したいという多くの生徒の思いを汲んで、今年度の新企画として、ペットボトルのキャップで壁画を作ることにしました。

本校文化祭のイメージキャラクター「ぱちぇる」が「CHALLENGE」している姿を、高校美術部の方がデザインし、それを分割した部分図を各クラスで作製してもらいます。それらを合わせて一枚の壁画にして、当日にお披露目しました。

この壁画を文化祭に向けて作製したことで、中学生の団結力と達成感を感じました。またペットボトルのキャップは生徒全員に呼び掛けて集めたものですが、文化祭終了後にはワクチンに換えてもらえるよう、寄付をしました。

（中学五人委員　本田　菜那子、丸山　夏季）

ノーベル平和賞に寄せて

本校卒業生のサーロー節子さんが、ノーベル平和賞を受賞したICANの事務局長と「ノーベル・レクチャー」に共同で臨まれました。これを聞きながら、昨年9月の日米高校生平和会議での節子さんの発言を思い出していました。この会議はニューヨークの国連・軍縮本部とボストンのハーバード大学を会場に、被爆者の講話を聞き、日本の高校生が実践する活動を報告し、若い世代にできることを話し合ったものです。延べ百人以上の高校生や一般市民が参加し、本校からは署名実行委員会の高校生4人が出席しました。

NYでの会議にはサーローさんがカナダから駆けつけて下さり、ご自身の被爆体験と平和活動についてお話をしてくださいました。その際、広島女学院のすべての原爆犠牲者の名前が書かれた黄色い布を生徒と一緒に広げ、「この子も、この子も私の友だちだった。彼女たちにはそれぞれの人生があったのに…」と言われました。

ノーベル・レクチャーでも「みなさんに広島や長崎で亡くなった人々の存在を感じてほしい。一人一人に名前があり、一人一人が誰かに愛されていた。彼らの死を無駄にしてはいけない」と訴えられました。そして、「核兵器は必要悪ではなく、絶対悪」とし、被爆直後に聞いた「あきらめるな、光に向かってはって行け」という言葉でレクチャーを締めくくられました。

サーローさんの後輩として私たちはこのスピリットを受け継ぎ、平和を作り出すミッションを常に覚えていたいと思います

（グローバル教育推進部　高見　知伸）

《高2》沖縄修学旅行

10月3日（火）～6日（金）、星野校長を団長として高2生徒と教員の計226名で沖縄修学旅行に行きました。初日は「よみたんガイド風の会」の比嘉涼子さんの講話とチビチリガマ見学。2日目の平和学習は今年度初の試みです。①沖縄尚学高校との交流②平和公園フィールドワーク③南風原文化センター④対馬丸記念館⑤嘉手納基地⑥普天間基地の6グループで沖縄の歴史と今を考えました。今年で4回目となる沖縄尚学高校との交流会ではディスカッションを中心に活気があふれていました。3日目午前は美ら海水族館、午後は体験学習です。最終日は首里城を見学後、国際通りを自由散策して帰路につきました。

また旅行終了後、LHRで各グループごとに平和学習の成果と感想を発表し、沖縄への学びを共有して深めていました。

この旅行を支えてくださった全ての方々に感謝いたします。

（高2学年会）

《中3》研修旅行

私たち中3は、10月4日から6日までの間、長崎研修旅行へ行き、歴史と文化に触れてきました。

1日目は班別で平和について学習しました。各班でいく場所を決め、長崎の原爆の歴史について学びました。広島とは違った印象を受けました。

2日目は平和のテーマに加えて歴史と文化について事前学習で調べたことをもとに長崎の街を歩きました。慣れない土地で電車を乗り継ぎ、様々な発見がありました。

3日目はハウステンボスをエンジョイしました。アトラクションは楽しく、オランダのような風景も美しかったです。あいにくの雨でしたが、1日目と2日目で仲が深まった班のみんなと充実した最終日を過ごすことができました。

3学期には、長崎で学んだことを踏まえ、小論文を作成します。広島とはまた違った長崎の原爆観なども伝えられるように研修で学んだことをまとめていきたいです。

（3年2組旅行委員　倉原・村木）

キリスト教強調週間（11月13～18日）

主題「何を願っている人間？」、主題聖句「主に自らをゆだねよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」（詩編37篇4節）、講師に安積力也先生をお迎えしました。先生は、敬和学園高校教頭、日本聾話学校校長、恵泉女学園中高校長、基督教独立学園高校校長と、4つのキリスト教学校を経験され、NHK『こころの時代』にも出演されました。

講演では、「私たちは生きていく上で、様々な仮面をつけており、自分自身でも本当の自分が分からなくなってしまっている。弱さも含め自分自身としっかり向き合うことが、自分の本当の願いを見つけ、人生を切り開いていく力になると同時に、周りを支えられる人間になれる。」ということを伝えていただきました。

学年別活動では、社会のさまざまな分野で働く講師の先生との出会いや「隣人と共に生きる」具体的実践活動の時間を持ちました。

閉会礼拝で、各学年の代表が発表した中から、その一部を次に紹介します。

「人生の中で大切な日の一つとなった日」

中1　平尾　優衣

私は今日、安積先生の話を聞いて、喉の奥に何かが詰まっているような、ぞくぞくするような、泣き出したいような、不思議な感覚になりました。そのくらい、今回の話は新しくて、私の胸に突き刺さるような話で、心が動いているのを自分でも感じたのです。

心に残っている話は二つあります。一つ目は内向性と外向性についての話です。「私はどっちにあてはまるのだろう？」と考えました。はじめは内向性かと思いました。でもそれは私が私に植え付けた私のイメージな気がしました。じゃあ外向性かなと考えました。確かに初対面の子ともわりとすぐ友達になれるところもあるし、と。でもそれも、そうありたいからと、私が私に植え付けたイメージな気がしました。「どれが本当の私なんだろう？」と先生の話に出てくる子と同じ悩みにぶつかってしまいました。「分からない」と本当の自分を理解する難しさに驚きながら先生の話を聞きました。すると先生は「外向性が良いと思われがちだけど、その人は心を内に向けて自分と向き合わなきゃいけない」と言われました。率直に思ったのは、「どうやって向き合えばいいんだろう？」ということです。ふわふわしていて具体的にはどうすればいいのかわからないのです。でも無意識に先生が言うのを待っている自分に気付いて、自分で考えなくちゃいけないと思いました。心と向き合うには練習が必要だそうで、先生の教えられない「自分との向き合い方」は、自分で正解を見つけようと思います。

二つ目に心に残ったのは、「心はタマネギの皮」というお話です。自分と向き合って（「内側の自分の」声を聞いて）、自分の心をタマネギのようにむいていくと、最後には「自分」の核が現れるそうです。その核を見つけたなら、「自分」が揺らがずに生きていけるといいます。きっと心のタマネギをむくと、想像できないくらい汚い感情であふれかえっているはずです。だって人の心より汚いものを、私は知らないからです。世界中のどんなものより汚いのは人の心だと思います。できることなら逃げたい。でも向き合わないと、きっと人生のどこかで挫折してしまう気がするのです。向き合わずに大人になることはできない気がするのです。年は大人でも心が揺らぐ芯の通っていない「自分」を持っていない大人になる気がするのです。将来の私の子どもに、芯の通っていない自分で接することはしたくありません。タマネギの核に出会うまで、わたしは大人になれないと思うし、なりたくありません。

中1でこの話に出会えたわたしはラッキーだと思います。まだ大人になるまで時間があります。この学校生活で、少しずつでも皮をむいていきたいと心から思います。こんなふうに今日1日で私の心はとても成長できました。大げさかもしれないけど人生の中でも大切な日の一つになったのではと思います。今日感じたことを絶対忘れずに、自分の心を育てていきたいと思いました。

（宗教教育委員会）

中高クリスマス行事

クリスマスを待つアドベント（待降節）になると、中学校地には讃美歌コンクールの練習の歌声が聞こえてきます。当日は各クラスが美しいハーモニーに合わせて、クリスマスや聖書の語るメッセージの豊かさを伝えてくれました。

中学クリスマス礼拝では、学年ごとの合唱、合唱部の合唱、YWCA部のハンドベル、放送部の聖書朗読、礼拝委員の感謝祈祷などと共に捧げました。

高校クリスマス礼拝は、絵本『三本の木』を放送部が朗読、音楽部の合唱、最後は、星野校長先生の指揮で全校生徒のハレルヤ合唱がゲーンスホールいっぱいに響きわたりました。司会、聖書朗読などを宗教委員、YWCA部が担当しました。

夜6時より行われた一般公開の女学院クリスマスでは、中学YWCA部のハンドベル、高校生有志による聖歌隊を加え、保護者、卒業生、一般市民の方々にも女学院のクリスマスを味わっていただきました。

女学院大学宗教主任の前田美和子先生から、イエスの誕生に出会った占星術の学者たちが、当時のユダヤでは救いから排除されているとされた外国人であったことから、神様の愛は社会的立場や人間的評価に関係なく、全ての人間に注がれているのだというメッセージを語っていただきました。

なお、クリスマス献金は、国内外の福祉・支援団体に寄付させていただきました。

（宗教教育委員会）

生徒の活躍

プラン・インターナショナル夏休み読書感想文コンクール2017

高校の部　最優秀賞／村上　七海（高2）

特別賞　／山下　璃子（高2）

学校賞受賞

幼稚園 Kindergarten

戸波先生ありがとう

2017年11月16日（木）、広島女学院ゲーンス幼稚園の元園長、戸波和子先生が神様のもとに召されました。87歳でした。先生は、大阪のキリスト教幼稚園から本園に1967年に着任され、初年度から主事を務められました。本園は、17年の休園期間を経て名称を『広島女学院附属幼稚園』から『広島女学院ゲーンス幼稚園』に変更して再開園（1962年4月）し、6年目を迎えたところでした。戸波先生は、その再開園後の保育の土台をつくってくださった方です。戸波先生から指導を受けた教職員にとっては、言い尽くせない感謝があふれて止まず、地上でのお別れはとても寂しいものでした。教職員や保護者の中にも、園児という立場で出会い、戸波先生の温かいまなざしや力強い言葉が、今も脳裏に焼き付いているという方もおられることでしょう。出会った人の心に安らぎを与え、豊かな想像力と創造力で様々な楽しいことをプロデュースされた戸波先生。困難に出会った時にはマイナスをすべてプラスに変えて行かれる頼もしいリーダーシップを発揮され、多くの人がその人となりに惹きつけられました。そのため、日本中、いや世界中に戸波先生のお友だちがおられます。音楽家や絵本作家、医師や俳優、スポーツ選手や映画監督など、各界の著名人が本園につながり、遊びに来てくださることが度々ありました。広島女学院ゲーンス幼稚園園歌を、『ぐりとぐら』をはじめ、多くのすぐれた絵本を世に出されている絵本作家・中川李枝子氏に作詞していただくことになったのも戸波先生がとりもつご縁でした。

戸波先生は敬虔なクリスチャンでした。戸波先生の最大の貢献は『子どもの視座に立つ保育』という、今の日本の保育が基本としている姿勢を、50年前から提唱され、本園がそのことを受け継ぎ、今日まで守り抜いているということだと思います。この姿勢は、『子どもたちを来させなさい。神の国はこのような者たちのものである。マタイ19：14、マルコ10：14、ルカ18：16』と聖書にあるように、キリスト教的子ども観から来るものです。子どもたちを丸ごと受け入れることをすべての保育活動において、終始徹底されました。その実践力を伴う力強い戸波先生語録は、現在でも生きて働いています。

『まずやらせてみなさい。そしてその結果を見守りなさい！』『大人が作業や工事をする時には、子どもから隠れたところでしないで、はじめから終わりまでその経過をすべて子どもに見せなさい。』『子どもを信じて待ちなさい！』『子どもに問題があるんじゃないの。その子を問題だと思うあなたの心に問題があるの！』『あなた自身がしっかり遊びなさい。街を歩いている時、デートをしている時、旅行に行った時、本を読んでいる時、コンサートに行った時、保育のヒントが宝の山のようにあるのよ。』『子どもにこそ本物を与えなさい。本物と出会わせなさい！』

目に見える戸波先生とは会えなくなりましたが、戸波先生がこの幼稚園にちゃんといてくださるように感じています。いや、戸波先生を通して示された神様の愛が今もこれからも広島女学院ゲーンス幼稚園に注がれ続けることを確信しています。

（園長　高田　憲治）

秋の恵みに包まれて

園庭には神様のくださったたくさんの木々があります。秋の深まりと共に赤、橙、黄、山吹、黄土、赤茶と色とりどりに紅葉し、その葉が舞い落ち始めると、子どもたちの遊び心に火が付きます。「うわー、いっぱいある！」と、熊手やスコップを手にみんなで集め、お風呂になったりふかふかのお布団になったり、焚火ごっこを楽しんだり、木の実と落ち葉のケーキや飲み物が出てくるカフェも誕生しました。「（ほんものの）たき火をしてみたい！」との声が上がり、園庭の一角にたき火台を用意して、みんなで温かい火を囲む経験をし、神様がくださった自然の中で、たくさんの恵みに感謝しながら子どもたちと過ごすことができた豊かな秋でした。

（幼稚園　櫻木　景子）

体も心もあったかいね

クリスマス

幼稚園で初めてのクリスマスを迎えた年少児。秋の終わり、お部屋に登場したアドベントカレンダーの扉をひとつずつ開け、クランツに明かりを灯し、2000年前の出来事に耳を傾け、みんなで一緒に賛美する日々を過ごしました。その中でクリスマスの本当の意味を少しずつ受け止め、その日を待つ喜びを分かち合い、大好きな家族にもこの喜びを伝えようとこっそりプレゼントを作りました。

クリスマス礼拝当日、年長児が演じるページェントでは聖歌隊となって賛美を捧げました。礼拝後、お家の方は子どもたちのプレゼントをいっぱいの笑顔で受け取り、子どもたちにもサプライズで手作りの贈り物が手渡され、愛にあふれた時を過ごすことができました。

（幼稚園　西保　菜里香）

宝物を捧げる博士たち

大学（P3の続き）

University

国際教養学部フィールドワーク報告会

12月6日に本年度の報告会が行われました。GSEのGlobal Village Field Experience、アジア・アフリカフィールドワーク、海外英語教育インターンシップ、芸術文化フィールドワークの4グループが報告発表を行いました。

4年間を英語のみの授業で学ぶGSEの学生は、発表者全員が英語で報告しました。今回は経済発展著しいベトナムを訪問しました。環境や農業食糧問題、日本との結びつきを現地の大学生やNGOの方々との交流を通して考え、印象に残る経験をしました。大学初のアフリカへのフィールドワークでは、ザンビアを訪れました。大自然や野生動物といった壮大なアフリカと、ショッピングモールやスマートフォンの浸透といったダイナミックな成長を遂げているアフリカの現在を感じることができました。海外英語教育インターンシップでは、引率の先生を伴わないため、否が応にも自分達で行動せざるを得ません。参加学生だけでイギリスに渡航し、ホームステイをしつつ語学学校で英語を学びました。さらに、小学校や高校での講義参観や模擬授業を行い、学校の様子を直接体験しました。大英博物館、エジンバラやリバプール、湖水地方にも行きました。芸術文化フィールドワークは、伊勢・熊野・高野山・明日香・奈良・京都をめぐる贅沢なコースで、学芸員を目指す学生だけでなく、日本の伝統文化や芸術に関心のある学生にも見逃せません。施設の方や専門家から直接お話を伺え、正確な知識や裏話など幅広く学べます。各地の名産を食し、由緒ある旅館に宿泊し、歴史上の人物の追体験を行い、短期間の中に日本の歴史を凝縮した思い出深いものとなりました。

来年度の長期型フィールドワークは、イギリス、アメリカ、スウェーデン・フィンランド、ベトナム、屋久島を予定しています。事前学修として、授業や課外活動で語学や関連する内容を勉強し、フィールドワーク終了後は報告書を作成し、各種機会に発表を行います。この経験を通して、自らの成長につなげてもらいたいと思います。

（国際教養学部
准教授　永野　晴康）

ザンビアでの研修の様子

事務局

Secretariat

第33回広島女学院クリスマスコンサート・メサイア

第33回広島女学院クリスマスコンサート・メサイアは、星野晴夫校長先生の指揮により12月23日(土)ゲーンスホールにて開催されました。多くの方々のご指導、ご協力、ご参加により大変感動的な音楽をお捧げすることが出来ました。年末のご多忙の中、ご来場いただいた皆様、練習に足を運んでくださった参加者の皆様、運営にご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。

今回は一昨年・昨年よりも多くの方が参加してくださったことで、迫力ある素晴らしいコンサートになったのではないかと感じております。当日を迎えるまでは、決して容易な事ばかりではなく、苦難の日もございました。しかし、沢山の方々のお力とお支えがあったからこそ、当日を無事迎えることが出来ました。今回を通して、学生たちは、一生忘れることのない経験をしたと感じております。

聖歌隊の活動としても、今回をはじめ、様々な場で歌う機会をいただけていることを、喜ばしく思います。すべての機会において最高の音楽をお捧げできるよう、今後とも練習に励んでまいります。

最後になりましたが、今後もメサイア・コンサートを皆様と過ごすことが出来る日を、聖歌隊一同、心より願っております。

（聖歌隊クワイヤ隊長
国際教養学部
国際教養学科3年
八田　美咲）

＜お詫びと訂正＞

本誌、2017(平成29)年10月20日、第182号に掲載しております記事中、下記について誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

記

・4頁左下、第51回原爆講座
上段15～17行目

「上田さんは詩壇の芥川賞であるH氏賞の受賞者でもあります。」は、正しくは「上田さんは詩集「八月の夕凪」が2010年、詩壇の芥川賞と呼ばれるH氏賞の候補に選ばれました。」です。

（宗教センター事務課長　坂野康文）

同窓会からのお知らせ

広島女学院大学エンパワーメントセンター同窓会共催聖書研究会

講　師／湊　晶子院長・学長
聖書は「生きる希望」について
何と語っているでしょう
～創世記から黙示録まで～
第五回／2018年2月24日(土)　13:30～15:00
場　所／広島女学院大学　人文館303号室

2018 ホームカミングデー

テーマ／こころをひとつに～あやめの伝統をつなぐ～
日　時／2018年4月21日(土) 10:30～13:30
場　所／リーガロイヤルホテル広島
会　費／8,000円

2018ホームカミングデー実行委員会(学年当番)
高校18　短大17　大英18
高校28　短大27　文英10　文日10
高校40　短大39　文英22　文日22

お問い合わせ／同窓会事務局 TEL・FAX 082 -221- 1059

会議報告

10月定期評議員会

2017年10月21日10時から開催。

【次期学長】
7月理事会において、2018年3月末に任期満了となる湊学長の再任を決定。任期は、2018年4月1日から2年間。

【諮問事項】
2017年度事業計画の執行状況について、次期中期計画策定のための議論の重要性や経済同友会との連携を評価する意見等が出された後了承。

【報告事項】
学事報告、財務の状況、創立130周年記念募金の状況。

第157回理事会

2017年10月24日14時から開催。

【選任事項】
次期中高校長候補選考委員会からの答申を受け、渡辺信一現高校教頭を次期校長とすることに決定。任期は、2018年4月1日から4年間。

【審議事項】
2017年度事業計画の執行状況について、キリスト教育実践に係る記載や次期中期計画と予算の整合に係る意見が出された後了承。
次に、第2次中期計画案（うち、施設計画及び財務計画）について、関係地域の生徒数の動向分析、数値目標やPDCAの必要性等の意見が出され、今後の取りまとめに生かすこととなった。

【報告事項】
学事報告、大学規程等（大学院特別奨学金給付規程の改正、大学の諸活動に関する方針の制定）。

第158回理事会

2017年11月28日14時から開催。

【審議事項】
第2次中期計画案（うち、施設計画及び財務計画、法人全体の教育理念・基本方針、法人と大学の重点目標・行動計画等）について、教職員数の削減や大学教員の研究体制の強化等に関する意見が出され、今後の取りまとめに生かすこととなった。

【報告事項】
学事報告、2018年度予算編成方針、管理者選任の公表方法等、災害時における避難所施設利用に関する協定締結等。

教職員動静

結婚
山井　美早紀（大学実験実習助手）　2017・8・3
武本と改姓

誕生
和（なごみ）ちゃん（常本奨悟中高教諭ご息女）　2017・10・25
采杏（とあ）ちゃん（重松深雪中高教諭ご息女）　2017・11・2
絢翔（あやと）くん（水津惇子法人事務局財務課兼大学会計課事務職員ご子息）　2017・11・12

召天
藤原　浩様（元大学特任教員）　2017・11・12
高田　正様（高田憲治ゲーンス幼稚園長ご尊父）　2017・11・16
戸波　和子様（元ゲーンス幼稚園長）　2017・11・16

人事

就任
渡辺　信一（次期校長）　2018・4・1～2022・3・31

日誌紗

10・1(日) 創立記念日
10・4(水) 大学・大学院秋季卒業礼拝・卒業証書学位記授与式
10・5(木) 公認会計士監査
10・6(金) 公認会計士監査
10・7(土) 幼稚園運動会
10・10(火) 経営会議
10・12(木) 事務協議会
10・21(土) 定期評議員会
10・24(火) 理事会
11・3(金・祝) 中高文化祭
11・9(木) 事務協議会
11・15(水) 文科省による学校法人運営調査
11・16(木) 経営会議
11・18(土) あやめ祭
11・19(日) あやめ祭
11・28(火) 理事会
11・28(火) 公認会計士監査
11・29(水) 公認会計士監査
11・30(木) 学院運営協議会
12・7(木) 事務協議会
12・14(木) 経営会議
12・16(土) 幼稚園クリスマス礼拝
12・17(日) クリスマスオープンキャンパス
12・19(火) 大学クリスマス音楽礼拝
12・20(水) 中高終業日、クリスマス礼拝
幼稚園終園日
12・23(土・祝) 第33回クリスマスコンサートメサイア同園会（卒園生の集まり）

寄附

広島女学院大学のために
株式会社アボアエンジニアリング様　300,000円

広島女学院のために
田村　興造様　10,000円
佐々木　孝富様　10,000円

学）広島女学院外灯改修工事として
広島女学院大学協力会様　820,800円

広島女学院大学の研究や活動支援として
人間科学研究所様　30,000,000円

AED（自動体外式除細動器）3セット補助（半額分）として
広島女学院大学協力会様　453,600円

中高教育充実のため
KAZUMI K.SAKUMA様　2,227,800円
山田　玲子様　30,000円
甘川　加緒理様
惠美　純子様
尾首　涼子様
福岡　美香様
星野　晴夫様
山縣　泉様
渡辺　信一様　20,000円
吉田　祥子様　11,000円
広島キリスト集会様　10,000円

現物寄附
福田　道宏様　ミラーレス一眼カメラ
澤村　雅史様　ノートパソコン
中田　珠峰様　布地（衣装ケース12箱分）
中原　美香様　書籍「原爆孤児ーヒロシマの少年・ナガサキの少女」（汐文社）
中　文生様　アルバム全5冊（第1回海外生活文化研究）研修旅行1988他）

創立130周年記念募金として
大之木建設株式会社様
白井　倫子様
三好　信吾様
（匿名　2名）　100,000円
（匿名　1名）　70,000円
広島女学院同窓会佐伯地区様
麻尾　順子様
石村　和敬様
塩冶　みはる様
川口　早香美様　50,000円
山崎　智子様
山代　春美様　30,000円
元廣　優子様　21,000円
広島女学院同窓会
関西ブロック様
住田　葉子様　20,000円
高校30期さんまる会様　14,660円
広島女学院同窓会山口支部様
小笹　瑞穂様
熊谷　祐子様
潮津　雅子様
鈴木　邦子様
園田　成子様
中司　久美子様
堀　榮子様
前橋　喜久子様
森戸　順子様
柳井　妙子様
（匿名　5名）　10,000円
（匿名　1名）　5,000円

創立130周年記念募金事業Bとして
今井　妙様　100,000円
クワイヤ　アイリス様　50,000円

募金事業
A 奨学金制度の充実
B 教育研究施設・設備の充実
C エンパワーメント・センターの充実

編集後記

新しき年も神さまと共にある喜びと感謝をもって過ごしてまいりたいと思います。広島女学院と私たちに繋がる多くの皆様にとって恵み豊かな年でありますように。
（幼稚園　久保木　裕子）